

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和8年度学校評価 計画

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	佐賀市立高木瀬小学校
1 前年度 評価結果の概要	・保護者アンケートや関係者評価において学校教育活動に対して高い評価を得ることができ、ほとんどの項目がA評価となった。学校教育目標達成に向けて適切な取組ができた成果であるとする。 ・学校改革の必要性を実感したことで、1年かけて職員一人一人の意識改革が進んだ。特に学校運営の中核となる4部会においては、各部がこれまで当たり前としてきた指導や活動を問い直す話し合いを行い、「主体性、当事者意識、確かな学力」を育む実効性のある取組を模索することができた。 ・BもしくはC評価であった3項目「学力向上」「健康・体づくり」「業務改善」を含め、4部会それぞれにおいて課題を明らかにすることができた。①家庭学習の意義・取組の周知強化 ②子ども主体の行事への転換推進 ③体力づくりのための環境の工夫と運動量の確保 ④ルールシキングのための体制づくり)に加え、C評価であった業務改善（超過勤務時間の削減）が大きな課題である。
2 学校教育目標	全児童に未来社会をしなやかに生き抜く力（主体性・当事者意識・確かな学力）を育む ～「時を守り 場を清め 礼を正す」を土台に、「自分で考え、自分で決めて、自分から行動する」指導・支援を手立てとして～
3 本年度の重点目標	○「時を守る」⇒「時間を守る」 ○「場を清める」⇒「無言無音そうじ」 ○「礼を正す」⇒「あいさつ・返事」の指導をていねいに根気強く行う。 ○「自分で考え、自分で決めて、自分から行動する」⇒伴走支援の言葉かけで対応する。

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者	
(1)共通評価項目											
重点取組				中間評価		最終評価		学校関係者評価			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	○児童が主体的に学習に取り組める授業づくり	○「授業とは」の問いに能動的なイメージの回答をする児童を80%以上にする。 ○「授業が楽しい・分かる」と回答する児童を85%以上にする。	・ミニ研究授業を通して授業実践の機会を設け、実践前の学年検討を2回行う体制を整える。全学年でのこうした継続的な検討と実践により、学習課題を活用した児童主体の授業づくりを推進し、児童の学習への能動的な取り組み意識を高める。 ・学習課題を明確に示し、児童が自ら考え、友達と意見を交流しながら学びを深める“児童主体の授業づくり”を進める。見通しと振り返りの活動を取り入れ、児童が「分かった」「できた」と実感できる授業を実施する。							まなび部	
	○児童の発達段階に応じた、自主性・主体性を育む家庭学習の指導	○「自分に必要な内容を考えて家庭学習に取り組んでいる」と答える児童を80%以上にする。	・家庭学習を発達段階に応じて3段階で指導する。自学の例を示したり、選択的に家庭学習を選んだりする仕組みを整え、全学級で取り組む。		・		・		・	まなび部	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「命・人権・法律を守る行動についてよく考えている」と回答する児童を85%以上にする。 ○「大好きな本がある」と回答する児童を90%以上にする。	・命や人権について多様な考えに触れられるよう、道徳の学習の充実を図り、学級で心に響く実話や事例を取り上げ、児童が感じたことや考えたことを交流し深め合う時間を計画的に設ける。 ・平和を考える日や人権週間には、児童が当事者意識をもって取り組めるよう、テーマや活動内容を児童と話し合って決定し、調べ学習・体験的活動・意見交流を組み合わせる実施する。 ・読み語りボランティアの活用や、国語科・図書の時間との連携を図り、児童が多様なジャンルの本と出会う機会を計画的に広げる。 ・委員会活動等において、児童が主体となって読書キャンペーンを企画・運営し、全校で読書に親しむ雰囲気づくりを進める。 ・児童同士でおすすめの本を紹介し合い、紹介カードやミニ発表などを通して、互いに読みたい本を広げる機会をつくる。		・		・		・	こころ部	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「友達と楽しく学校生活を送っている」と答える児童を90%以上にする。 ●「先生はあなたのありのままを受け止めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上にする。	・児童一人一人の個性や感じ方を尊重し、学習や日常の努力や過程を丁寧に認める声掛けを行い、安心して自分を出せる学級づくりを進める。日々の対話や選択の機会を設け、児童の思いや価値観、得意なことを理解し、他者との比較ではなく個々の成長を大切にする関わりを徹底する。また、児童の気持ちに寄り添い、困りごとや挑戦に伴走する姿勢を全教職員で共有し、「受け止めてもらえている」と実感できる関係づくりを図る。 ・児童一人一人の個性や感じ方を尊重し、学習活動や日常場面で努力や過程を丁寧に認める声掛けを行い、安心して自分を出せる学級の雰囲気づくりを行う。 ・日々の対話や選択の機会を意図的に設け、児童の思い・価値観・得意なことを理解し、他者との比較ではなく一人一人の成長を大切にすることに関わりを徹底する。 ・児童の気持ちに寄り添い、困りごとや挑戦に伴走する姿勢を全教職員で共有し、児童が「受け止めてもらえている」と実感できる関係づくりを進める。		・		・		・	こころ部	
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	○「歩いて登校している」と答える児童を95%以上にする。 ○「体育の授業が楽しい」と回答する児童を80%以上にする。	・歩くことの意義を学ぶ保健指導や学級活動を行うとともに、通学路の安全点検や歩いて登校を促す活動を児童主体で企画・運営する機会を設ける。歩くことの楽しさや達成感を実感できる取組を通して、毎日歩いて登校する児童を増やす。 ・運動委員会を中心に、全校放送や学級活動を通して歩き登校のよさを発信し、児童が互いに声をかけ合いながら歩いて登校する雰囲気づくりを進める。 ・児童が安心して体育に取り組める環境を整え、めあてをもって主体的に学べる授業を進める。技能習得を段階的に支援し、教え合いや動まし合いを生かして「できた」「楽しい」を実感できる学習を充実させる。 ・保健指導や運動委員会の活動と連携し、体を動かすことの意義を理解しながら、日常的に運動へ親しむ態度を育成する。委員会活動では、放送やスポーツイベントの企画などを通して、学校全体に「体を動かす文化」を広げていく。		・		・		・	からだ部	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上にする。	・業務の精選やICT活用の推進を行い、学級事務の時間を確保する。 ・定時退勤促進日を設定、実行する。 ・毎月の業務記録をフィードバックし、個人の業務改善への意識を高める。 ・長期休業中の研修計画を工夫し、連続した年次休暇を取得しやすくする。		・		・		・	教頭	
●特別支援教育の充実	○個別的教育支援計画や個別の指導計画に基づいた個に応じた指導・支援を行う。	○個別の指導計画に取組や成果を定期的に記入し、指導・支援に活用できていると回答する担任を100%にする。	・「自立」と「社会参加」を見据え、児童一人一人の実態に応じた指導・支援を学校全体で継続的に行う。 ・個別の指導計画への記入を、明確な期限を設けて定期的の実施し、生徒指導・教育相談会議で記入内容を共有する時間を確保することで、全教職員が児童の成長や課題を把握し、次の指導に生かす体制を整える。 ・学校生活支援員および特別支援学級支援員の業務記録を回覧し、児童の状態や支援内容、その効果を担任と関係職員で共有することで、支援の一貫性と質を高める。		・		・		・	こころ部 (特別支援CO)	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目											
重点取組				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
◎志と誇りを高める教育	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上 ○「自分たちの生活は自分たちでよりよくできる」と回答する6年生を90%以上にする。	・キャリアパスポートを活用し、学期末や年度末に“どんな自分になりたいか”を記入したり、1年後の目標を見通したりする時間を設け、継続的に振り返りながら夢や目標を更新できるようにする。 ・学校のきまりだと思い込んでいることについて生じた疑問を取り上げ、代表委員会などで児童が主体的に内容を見直し、改善案を話し合っ提案できる機会を設ける。		・		・		・	指導教諭 主幹教諭 くらし部	

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志と誇りを高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・
--------------------	--